

より高い教育効果のための連携・協働

4班：教員・学内との連携協力・分担

平成22年度学術情報リテラシー教育担当者研修
大阪大学会場 グループ討議 平成22年10月22日(金)

なぜ連携・協働しなきゃいけないの？

より高い教育効果を得るため

今できていますか？

事例報告

A大学の場合

「図書館は本を借りるだけの場所か？」

→就職ガイダンスを館内で実施。

しかし結果は・・・

B大学の場合

図書館利用についての講習会は知っている

が、

データベースを使ったりした
文献収集などの講習会があるのを知らない

C大学の場合

一部の教員の講義に協力



シラバスへ

問題点

人員不足

反発

D大学の場合

- 教員へ一方的に呼びかけ
 - 結果、要望がばらばらに…
 - 人数が足りない
 - 場所がない
 - ノウハウが蓄積できない

E大学の場合

- 1年生配当の授業内でガイダンスを実施
- 学科or教員単位で、日程・教室を調整

(問題点)

- 調整が大変
- 担当者が限られる(ノウハウの問題)

F大学の場合

教員からの申し込みに頼っている



- 特定の教員ばかり
- 図書館独自のガイダンスを行っていない



申し込みの制度・プランが確立されていない

どうすれば解決できる？

1. 学内で十分認知されていない

(A大学、B大学)

現状評価→モデルの作成→学内アピール

どうすれば解決できる？

2. 多様なニーズに応えられない

(C大学、D大学)

現状報告→協力要請

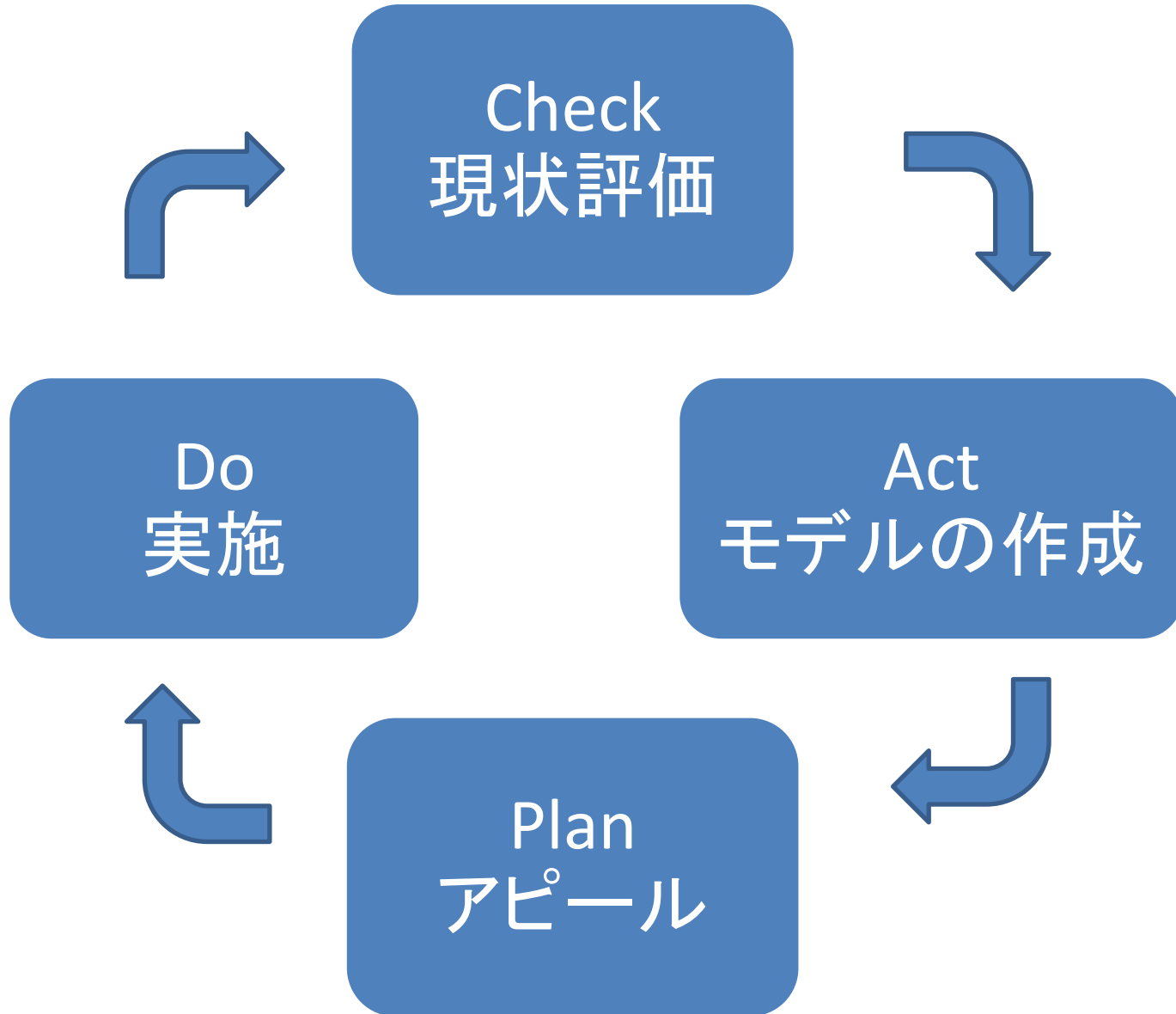
どうすれば解決できる？

3. 制度化されていない

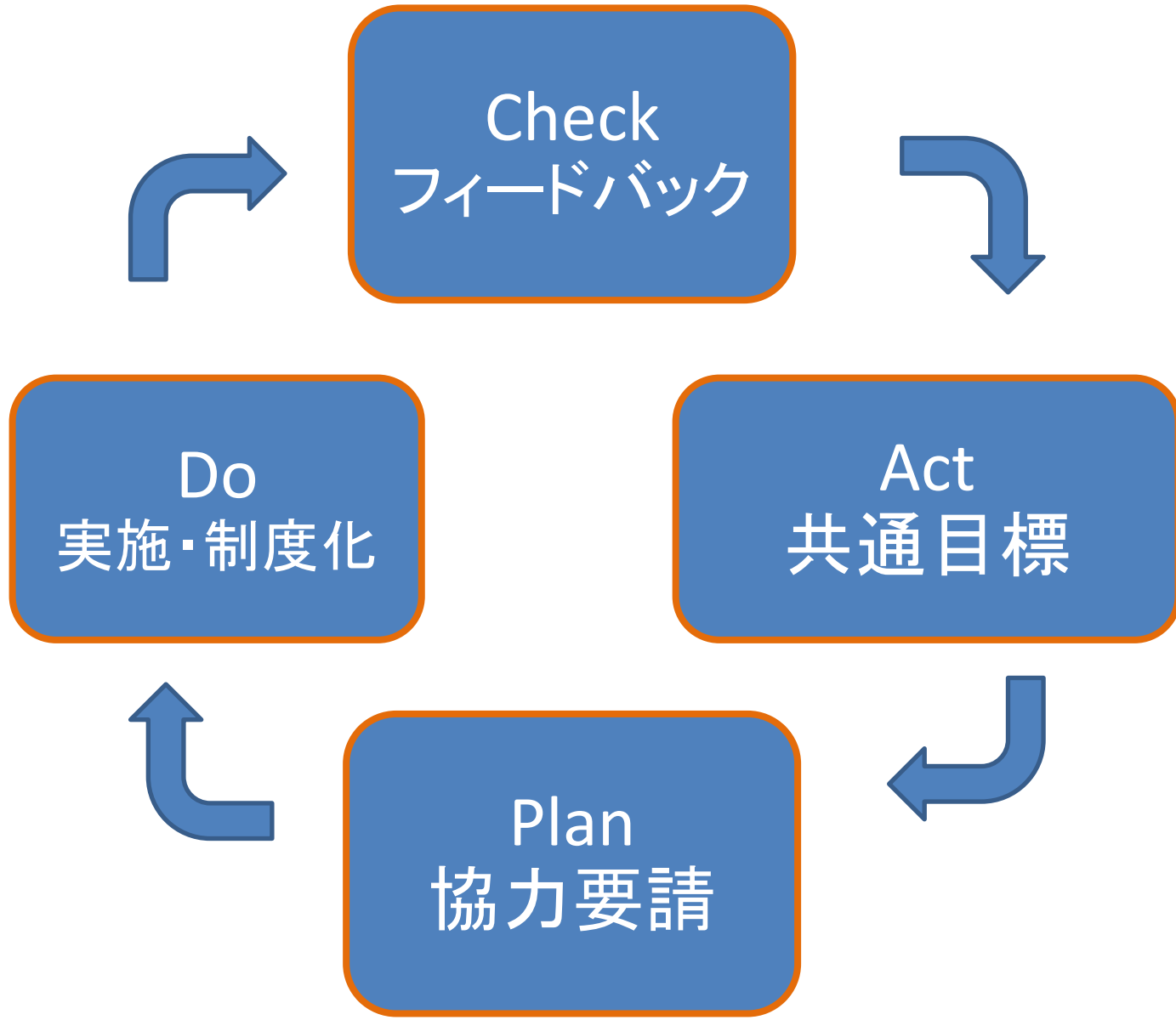
(E大学、F大学)

実績→ノウハウの共有→信頼関係の構築

まずやってみよう！



つぎにつなげよう！



なぜ連携・協働しなきゃいけないの？

- ・より高い教育効果を得るため
- ・学びの中心としての図書館に！

みなさんががんばりましょう！